

経営状況の概要（令和7年度）

1 団体の概要

団体名	公益財団法人郡山市観光交流振興公社			設立年月日	平成1年7月18日
所在地	郡山市安積町成田字東丸山61番地			設立根拠	一般法人法第163条、 公益法人認定法第4条
電話番号	024-947-1600	FAX番号	024-947-1601	所管部課	文化スポーツ観光部観光政策課
主な事業内容	地域の活性化と潤いのあるまちづくりに寄与するため、貴重な地域資源を活かしながら市民交流及び交流人口の拡大を促進する事業				
webアドレス	http://www.koriyama-kankoukouryu.jp/				

2 財務状況・財務分析（単位：千円）

資本金（基本金）等	90,000	千円	市出資（出捐）金	90,000	千円	出資比率	100	%
	項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比	増減理由		
貸借対照表	総資産	287,508	367,250	401,294	34,044			
	流動資産	189,285	265,490	296,721	31,231	現金預金の増		
	固定資産	98,223	101,760	104,573	2,813	固定資産の購入による増		
	負債	53,092	68,771	74,774	6,003			
	流動負債	53,092	68,771	74,774	6,003	都市公園等の年度末工期の未払い金増		
	固定負債	0	0	0	0			
	資本	234,416	298,479	326,520	28,041	正味財産の増		
損益計算書	累積欠損額				0			
	a 経常収益	674,756	871,534	873,309	1,775	指定管理料の増		
	b 経常費用	662,323	808,719	843,938	35,219	人件費、委託料等の増		
	c 経常収支差益(a-b)	12,433	62,815	29,371	▲ 33,444			
	d 経常外収益	1,811	2,388	336	▲ 2,052	生物生産取得額の減		
	e 経常外費用	623	187	775	588	生物除却額の増		
	f 経常外収支差益(d-e)	1,188	2,201	▲ 439	▲ 2,640			
	g 特別収益	0	0	0	0			
	h 特別損失	0	0	0	0			
	i 特別収支差益(g-h)	0	0	0	0			
	j 税引前当期純利益(c+f+i)	13,621	65,016	28,932	▲ 36,084	経常費用の増		
	k 法人税等	72	72	72	0			
	l 当期純利益(j-k)	13,549	64,944	28,860	▲ 36,084	経常費用の増		
	m ※ 総収入(a+d+g)	676,567	873,922	873,645	▲ 277	生物生産取得額の減		

3 役職員の状況（令和7年度）※ 職員＝正規職員のみ記載

役員数	12 人	（うち市派遣）	0 人	（うち市退職者）	2 人
職員数	20 人	（うち市派遣）	0 人	（うち市退職者）	0 人
常勤役員平均報酬	4,712 千円	非常勤役員平均報酬	17 千円	職員平均年収	6,453 千円
役員平均年齢	66.7 歳	職員平均年齢	44.9 歳	人件費（R7）	293,391 千円
市退職者の役員就任割合	16.7 %		※参考	人件費（R6）	279,608 千円

4 団体への市関与の状況

（1）市の支出

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比	増減理由
補助金（助成）	97,518	119,208	118,830	▲ 378	
①運営費補助	34,944	35,830	34,624	▲ 1,206	補助対象経費（人件費）の減
②事業費補助	52,078	54,600	52,199	▲ 2,401	補助対象経費（飼料代）の減
③その他補助	10,496	28,778	32,007	3,229	職員の退職金の増
利子補給金				0	
その他				0	
損失補償契約に伴う金利軽減額				0	
出資金、低利貸付等に伴う機会費用				0	
合計	97,518	119,208	118,830	▲ 378	
委託料（指定管理料を除く）	0	0	0	0	
うち随意契約	0	0	0	0	
指定管理料	335,421	484,389	494,909	10,520	

市からの委託業務の詳細（指定管理業務を除く）

市からの委託業務はありません。

（2）その他

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	前年度比	増減理由
損失補償契約に係る債務残高	0	0	0	0	
（将来負担額）	0	0	0	0	
（将来負担算入率）	0	0	0	0	
貸付金残高	0	0	0	0	
出資金	0	0	0	0	
出捐金	90,000	90,000	90,000	0	
合計	90,000	90,000	90,000	0	

5 監査等の結果

監査等種類	内部監査（監事）	財務会計指導業務（公認会計士）	
実施時期	令和7年5月14日	令和7年5月9日、令和7年11月27日	
指摘・意見	特になし	特になし	
対応状況			

6 経営に関する指標 単位：％

法人の自立性	令和6年度	令和7年度	令和10年度	令和13年度	令和18年度	計算式
市からの収入割合	69.1	70.3	69.0	67.0	64.0	市からの委託料・補助金・指定管理料/総収入
市との随意契約比率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	随意契約金額/委託料
外部委託率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	外部委託額等/随意契約金額
組織運営の効率性	令和6年度	令和7年度	令和10年度	令和13年度	令和18年度	計算式
販売・管理費比率	4.0	4.0	3.0	3.0	1.0	販売・管理費/総収入
財務の健全性	令和6年度	令和7年度	令和10年度	令和13年度	令和18年度	計算式
経常比率	107.8	103.5	105.0	107.0	110.0	経常収益/経常費用
自己資本比率	81.3	81.4	85.0	85.0	85.0	資本/総資産
流動比率	386.0	396.8	350.0	350.0	350.0	流動資産/流動負債
固定比率	34.1	32.0	39.0	38.0	37.0	固定資産/資本
人件費率	34.6	34.8	34.0	32.0	30.0	人件費/経常費用
利益率	7.2	3.4	5.0	7.0	10.0	経常収支差益/経常収益
売上高当期純利益率	7.5	3.3	5.0	7.0	10.0	当期純利益/経常収益
借入金依存度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	借入金＋社債/総資産
余剰金（欠損金）	208,479	236,520	230,000	225,000	220,000	資本-基本金・資本金
指定管理依存度	55.4	56.6	49.0	48.0	47.0	指定管理料/総収入

7 経営分析、評価及び将来展望について（2～6の分析）

	現在（分析・自己評価）	将来展望・中長期的ビジョン
法人の自立性	当法人の主な収入源は、郡山市からの指定管理料と郡山カルチャーパークドリームランド及びプール並びに郡山石筴ふれあい牧場の利用料金収入であり、「ベビーファースト運動」の考えを軸に、郡山カルチャーパークでは、毎月小学生以下を対象に大型遊具及びカルチャーセンターアリーナを無料開放とするキッズデーやキッズウィークの実施、ドリームランドの冬期間の土日祝日の営業、郡山石筴ふれあい牧場を春休みに合わせ前倒しで3月にオープンさせるなど、子どもをまん中に据えた利用者サービスの向上に努めたところであるが、春先の天候不順や夏場の猛暑などの影響により施設利用者数及び収入は減少した。	公社独自のウェブサイトやSNSなどの媒体を積極的に活用することで県内外に情報を発信し、また県内道の駅など集客の高い施設へパンフレット等の設置により誘客宣伝を図る。また、施設利用者のニーズの把握に努め、事業の見直しによる一層の利用者数の増加を図ることで、自立性を高めていく。さらに、収益事業の収益向上に向けて、メニューや仕入価格等の見直しを適宜行うなど、自主財源の確保に努めながら、歳出削減にも取り組んでいく。
組織運営の効率性	販売・管理費比率については、職員の昇給及び正職員2名の定年退職に伴う退職手当を計上したが前年度とほぼ同額で、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第19条の規定に基づく管理費の配賦を行ったことにより低水準となっている。 当公社役員・評議員には、公益法人の趣旨に則り財団運営に関連性の深い団体から就任していただいており、それぞれの立場から様々な助言をいただきながら、適正かつ効率的な組織運営を行っている。	今後、定年退職を迎える職員の再雇用者が増加していくが、新たな人材を確保し、適材適所の人員配置に努めるとともに、ふくしま自治研修センターでの研修参加により職員の資質の向上を図るなど、さらなる組織の活性化、効率化を図り、公益法人として地域に根ざした組織運営に努める。 事業についても、PDCAサイクルを意識し、アンケートなどにより市民の声を把握しながら常に改善を図ることで利用者サービス及び効率性の向上に努めていく。
財務の健全性	職員の高齢化や人件費の改定などから人件費率がやや高い数値を示しているが、自己資本比率及び流動比率は引き続き高い水準で推移している。 また、施設利用者が減少したこと等により、事業収益は減少したが、提案事業の見直しや物価高騰等による収益事業の料金見直しを行うなど、概ね財務の健全性は確保できている。	公益目的事業間での財務の柔軟性、効率性を活かし、事業の連携など安定的な事業の展開を図っていく。 また、安定的な運営を図るための自己財源の確保を強化するため、一層の誘客及び利用者のニーズの把握に努め、事業の見直しや新たな事業を展開することにより料金収入の確保に努めていく。

8 その他取組状況及び特記事項【団体回答欄】

- ・郡山石筴ふれあい牧場では、オープン30周年記念イベントの実施や毎週土曜・日曜日ごとに動物にふれあえる体験事業の創出に加え、1995年の開場以来初めてとなる春休みに合わせ前倒しで3月にオープンさせ、誘客に努めた。
- ・郡山カルチャーパークでは、キッズデーやフリーパス販売などの拡充や新規事業の創出により誘客に努めた。
- ・郡山カルチャーパークでは酷暑対策として暑さ指数（WBGT）を場内2か所で表示し注意喚起を促すとともに、ミスト設備や「小さな水の遊び場」の設置、カルチャーセンター展示室の無料休憩所開放などにより、利用者の安全確保と快適な利用環境の提供に取り組んだ。
- ・春休み期間中の郡山カルチャーパークと郡山石筴ふれあい牧場は通常の休館日を開館日とし、利用機会の拡大を図るなど、利用者ニーズに応じた柔軟な施設運営を実施した。
- ・ふくしま自治研修センターで実施している基本研修や選択研修に職員を派遣し、職員の資質向上に取り組んだ。
- ・こおりやま広域圏内の各小学校の全児童を対象に管理施設への招待事業を春・夏・秋・再オープンの4回実施することにより、児童・青少年の健全育成、観光交流の振興に取り組んだ。
- ・21世紀記念公園で近隣の事業者と連携し、11月から2月にかけてイルミネーションを実施した。また、社会福祉事業団及び地域住民（未就学児と保護者）との連携による花壇作りを行い、緑化振興及び花壇活用に努めた。
- ・市観光協会、市コンベンションビューローの役員等として参画し、地域と連携しながら観光振興に寄与するとともに、セーフコミュニティ推進委員として市の施策であるセーフコミュニティを推進した。
- ・不正防止のため、①「日々の売上金」については、取扱い職員を固定せず複数人でチェック、②「物品等の発注業務」については、発注者と支払者は別々の職員が担当、③「入出金状況」については、月に複数回通帳をチェックし公社内ファイルサーバーで公開するとともに、月末には仮決算書を作成し取引金融機関の残高証明書と通帳を照合、などの対策を講じている。

9 市の評価【事業評価】（指定管理業務を除く）

委託事業なし

10 市の評価【財務・経営状況評価（団体の経営分析を踏まえたもの）】

昨今の急激な物価及び人件費高騰の状況や、気候変動の影響で施設利用者数の減少がありつつも、学生の長期休暇に合わせた営業日の設定など利用ニーズを踏まえた営業や料金見直しなどの創意工夫により、財政の健全性を確保したことは評価できる。一方で、指定管理の依存度割合は56.6％と半数以上となっていることから、次期更新時期を見据えた組織運営について検討する必要がある。